

環太平洋大学におけるキャリア支援体制の確立にむけて（Ⅰ）

－キャリアセンターの5分室における実践報告から－

Organizational Career Support Perspectives in International Pacific University

－ A report on the Career Centers five branches －

キャリアセンター
岡野 聡子
OKANO, Satoko
Career Center

次世代教育学部学級経営学科
杉田 郁代
SUGITA, Ikuyo
Faculty of Education for Future Generations
Department of Classroom Management

キーワード：キャリアセンター，キャリア支援，キャリア教育，キャリア形成支援

Abstract : The aim of this paper is to describe the career education in universities in recent years. In addition, focus will be made on the practice report produced by the International Pacific University on the five branches of organizational structure. The current trend in Universities emphasizes processes of employment, rather than paying attention to finding employment. This process also referred to as “Career Development Support”, requires overhaul. It is the intention that each student receive individual guidance at this stage, so as they can find suitable employment to begin their career.

Keywords : Career center, Career support, Career education, Career development support

1. はじめに

本学は平成19年4月に開学し、平成23年3月に第一期生が卒業した。岡山労働局の雇用労働統計（2011.3）によると、平成23年3月の岡山県内の大学生就職内定率は、87.7%であり、平成3年の統計調査開始以来、3番目の低さであった。その中で、本学の就職内定率は91.45%（進学者等を除く）であった。

本学キャリアセンターでは、「個人指導の徹底」をキーワードに掲げ、一人ひとりの夢への挑戦を後押しし、実現するためのキャリア支援体制を確立しようとしている。本稿では、大学のキャリア教育をめぐる昨今の動向を大まかに述べ、キャリアセンターにおける各分室の実践報告から今後のキャリア支援体制の確立に向けた取り組みを考察することを目的としている。

2. 大学をめぐるキャリア教育の現状と動向

キャリア教育は、平成18年の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」におい

て、小中高等学校の児童生徒に対するキャリア教育の必要性が明示され、文部科学省の施策として始められた。キャリア教育の定義は、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」とされ、具体的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」とされている。そのために小中高等学校における「キャリア教育の手引」を発刊し、都道府県教育委員会においても様々な取組みがなされてきた。

高等教育におけるキャリア教育については、小中高等学校に遅れて、平成21年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」の提言によって、「キャリア」について触れられたのが最初である。具体的には、「学生が入学時から自らの職業観、勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるよう、教育課程内外にわたり、授業科目の選択等の履修指導、相談、その他助言、情報提供等を段階に応じて行い、これにより、学生が自ら向上することを大学の教育活動全体を通じて支援する「職業指導

(キャリアガイダンス)」を適切に大学の教育活動に位置づけることが必要である」とされた。ここでは、キャリア教育という名称ではなく、キャリアガイダンス(社会的・職業的自立に関する指導等)と呼ばれた。

さらに、提言後には、大学設置基準の改正により、「大学におけるキャリアガイダンスの推進」の規定が新設された。「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を教育課程の実施および厚生指導を通じて培うことができるよう大学内の組織間の有機的な連携を図り適切な体制を整えるものとする」(文部科学省、2011)というものである。平成22年2月25日に公布され、平成23年4月1日より施行された。

次に、大学におけるキャリアガイダンスの実施状況について、学生支援機構の調査結果を見てみたい。

就職ガイダンス、セミナーの実施状況を見ると、大学全体の数値は平成17年の77.7%から、平成20年には91.8%に増加している。また、教育課程内において実施する職業意識の形成に関する授業科目の開設状況であるが、これは、平成20年の調査結果では、74.3%の大学が実施している。さらに、平成22年の調査に加えられた必修として設定したキャリア科目の開設状況は、74.3%の大学が実施していた。対象は全学実施で、1年次では69.7%、2年次57.2%、3年次47.3%、4年次20.1%であった(学生支援機構、2011)。この調査結果からも、キャリアガイダンスを必修化する大学も多く、低学年を重視し実施していることが明らかである。

最後に、教育課程内外の取組みについてまとめる。教育課程内では、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成を目指してカリキュラムが構成されている。また、教育課程外においては、厚生指導に位置付けられている取組みが、キャリアセンター(旧名称は就職課)等で実施されている。(大学のキャリアセンターのホームページを見ると、就職ガイダンス、履歴書・エントリーシートの作成指導、個別・集団面接指導、マナー講座・メイク講座・SPI講座等といった就職活動に直結した取組みが多くなされている。)昨今のキャリアセンターは、上記の教育課程外での取組みのみならず、教育課程内での取組みとの連携、及び、それらを包括するキャリア形成支援の役割をも担っている。

3. 環太平洋大学キャリアセンターの特徴と概要

本学キャリアセンターの一つの大きなキーワードは、「個人指導の徹底」である。キャリアセンターでは、学生個人に対してきめ細かい指導を実現するため、5分室を設けて学生指導にあたっている。また、平成23年度から3年生の後期に開講される「キャリアデザイン」が必修化されたことに伴い、4分室(教職支援室(小・中・高分室)、教職支援室(幼保・施設分室)、公務員就職支援室、企業等就職支援室)において、キャリア支援プログラムを実施した。3年生の後期に進路の見通しを持たせることは、早期キャリア形成の観点からも有効であると考えている。

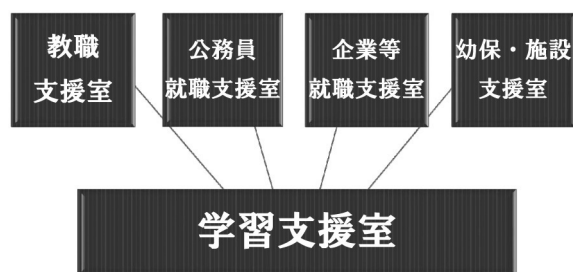


図1 環太平洋大学 キャリアセンター

小稿では、それぞれの分室の取り組みと平成23年度から3年生の後期に必修化された「キャリアデザイン」の概要と実施内容を以下にまとめ、本学におけるキャリア支援体制の内容を具体的に述べたい。

(1) 学習支援室の取り組み

学習支援室では、入学決定時から2年生修了までの期間において、学生の基礎学力向上のためのサポートを展開している。

松下(2010)は、初年次教育を「高校からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主に大学新入生を対象に総合的につくられたプログラム」と定義しており、本学では、この初年次教育を推進するプログラムを「学習支援講座」と呼んで実施している。また、基礎学力の基本である「読む・書く・表現する」のリメディアル教育(補習)を実施するにあたり、本学では主要三教科「日本語・数学・英語」を用いている。

基礎学力の育成方法

- ①入学前研修…入学予定者に対して、基礎学力の必要性や養成方法を提示する。
- ②入学前学習…日本語・数学・英語について、e-Learning教材にて学習を行う。
- ③基礎学力テスト…毎年3月に日本語・数学・英語の基礎学力テストを実施する。

1年次には、全学生が学習支援講座を受講し、その中でも日本語は全員必修であり、年間30回を開講している。本学では、受講した学生の日本語力がどの程度伸びたかを確認するため、「日本語検定」を受験させ、3級（高卒程度）以上の上位級の取得を目標としている。数学は前期15回・後期15回、英語も前期15回・後期15回が開講されているが、テスト結果により受講免除を可としている。

2年次では、選択制の進路別課外講座が開講され、学生は少なくとも1講座は必ず受講をする。開講している講座の種類は、小論文講座、SPI講座、一般教養講座（国語・数学）、一般教養講座（社会・理科）、TOEIC講座である。

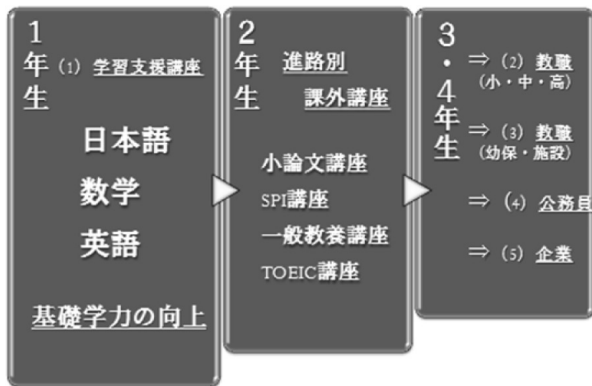


図2 キャリアセンターの取り組み

(2) 教職支援室（小・中・高分室）

教職支援室では、教員志望の学生に対して、教員としての使命感や責任感を自覚させるとともに、今日の教員に求められる専門的な知識の習得や指導力の向上を図ることを目的としている。教員採用試験の指導だけでなく、学生が小学校や中学校へボランティアスタッフとして出向き、授業や生活指導の援助を行う「学校支援ボランティア」の受付も行っている。

【公立の教員採用試験の一例】

- ◆採用試験実施時期：7月～8月（発表：9～10月）
1次試験…一般・教職教養試験，専門教科
2次試験…個人面接，模擬授業，場面指導

公立の教員採用試験申し込み期間は、各都道府県市町村によって異なり、毎年4月～6月の間に行われる。7月に1次試験、2次試験は8月に実施される。私立の教員採用試験は1年を通して募集があるが、6月～7月（春採用）、10月～12月（秋採用）の募集が多くみられる。私立の教員採用試験の特徴として、公募期間が1週間～10日程度と大変短いことを念頭において採用試験の準備をする必要がある。

【教職支援室（小・中・高分室）のキャリア支援】

教職支援室のキャリア支援は、教員1名と職員3名で行っている。

①「キャリアサポートセミナー」の実施

キャリアサポートセミナーでは、4年生を対象として毎週月曜日の4講時に、願書や履歴書、面接票の書き方から、論作文、面接（個人・集団）、集団討論、模擬授業の指導を行っている。

②教員採用1, 2次試験対策講座の実施

教員採用1次試験直前の7月（毎週月・水曜日5講時に）、4年生を対象として個人面接、集団面接、集団討論等の1次対策講座を実施している。8月（月～金曜日終日）には、2次対策講座を実施し、個人面接、集団面接の他に模擬授業や場面指導の指導をしている。

③学習支援ボランティアの受付

岡山市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校と連携をして、教育活動や学校行事などを支援するための場を学生に提供している。

④平成23年度「キャリアデザイン」の実施

教職支援室では、以下のキャリア支援プログラムを実施している。3年生（後期）を対象としている。

表 1

日程	内容
9/26	◆全体会
10/3	教員採用試験の概要 採用試験の時期・内容、試験合格までのモデルスケジュール、合格に向けての心構え等
10/17	ボランティア体験のすすめ ボランティアの必要性と先輩からの報告 「ボランティア体験を通して学んだ事」
10/24	◆全体会
10/31	◆全体会
11/7	教員採用試験合格者の体験発表会 「合格の秘訣を探る」
11/21	◆全体会
11/28	個人面接、集団面接、場面指導 個人・集団面接、場面指導の概要・留意点 先輩の個人・集団面接、場面指導
12/5	模擬授業指導① 模擬授業の概要・留意点 先輩の模擬授業、模擬授業の体験
12/12	小学校長による講演会 「今の学校現場の状況と期待される人材」
12/19	集団討論指導 集団討論の概要・留意点 先輩の集団討論
12/26	論作文指導 論作文試験の概要・留意点 先輩の論作文、論作文試験の実際
1/16	◆全体会
1/23	模擬授業指導② 各都道府県の模擬授業形態・内容 授業の組み立て方と模擬授業の実際
1/30	採用試験に向けた取組の成果と課題 教員採用試験に向けた取組の振り返り 来年度に向けての課題と取り組みの方法

(3) 幼保・施設支援室

幼稚園、保育所、施設の採用試験は、保育実技試験などの専門的な要素が多く含まれるため、保育・施設現場にて経験のある職員が配置されている。学生を指導する際、各保育専門分野の教員と職員が相互連携を取って学生を支援していることも一つの特徴である。

【幼保・施設の採用試験の一例】

◆採用試験実施時期：7月～11月（最終発表12月）

1次試験…一般・専門教養試験，論作文試験

適性検査

2次試験…保育実技試験（弾き歌い，絵画製作，

身体表現），身体・体力検査，口術試験

3次試験…模擬保育，口術試験

幼保・施設の採用試験には、保育実技試験が課される。保育実技試験とは、ピアノを弾きながら童謡を歌う「弾き歌い」、自分の左手のデッサンや廃材や画用紙で子どものおもちゃを製作する等の「絵画製作」、創作ダンスやリズムに合わせてスキップをする、マット運動等の「身体表現」である。3次試験には、模擬保育と呼ばれる保育実践がある。2次試験までの自治体も多い。

【幼保・施設支援室のキャリア支援】

幼保・施設支援室のキャリア支援は、教員1名と職員3名で行っている。

①「キャリアサポートセミナー」の実施

キャリアサポートセミナーでは、4年生を対象として願書や履歴書、面接票の書き方から、論作文、面接（個人・集団）、集団討論の指導を行っている。

②公立の幼稚園・保育所1、2次試験対策講座の実施

教員と職員が連携して、1次試験対策講座（幼稚園教職専門科目講座と保育専門科目講座）を4年生を対象として毎週火・木曜日の5講時（平成23年11月末現在）に実施している。2次試験対策講座は、8月の月～金曜日の開室時間内に学生に対して個人指導を展開している。

③幼稚園・保育所採用実技対策講座の実施

ピアノの弾き歌いや絵画製作、身体表現、手遊び、絵本の読み聞かせ等の実践演習や模擬保育の指導を毎週月曜日5講時に実施している。

④ボランティア実習の紹介

教育課程内で行う教育実習や保育所実習以外に、現場体験をもっとしたいという学生のためにボランティア実習として実習先の紹介をしている。

⑤平成23年度「キャリアデザイン」の実施

幼保・施設支援室では、以下のキャリア支援プログラムを実施している。3年生（後期）を対象としている。

表2

日程	内容
9/26	◆全体会
10/3	造形表現講座 造形実技 (45分), 適性検査 (45分)
10/17	採用試験合格者の体験発表会 「合格の秘訣を探る」
10/24	◆全体会
10/31	◆全体会
11/7	エントリーシート講座 エントリーシートの留意点と作成
11/21	◆全体会
11/28	履歴書講座 履歴書の書き方の留意点と作成, 小テスト
12/5	造形表現講座 造形実技 (45分), 小テスト (45分)
12/12	小論文講座 小論文試験の概要と留意点, 小テスト
12/19	模擬試験① 一般科目 (幼保・施設用)
12/26	模擬試験② 専門科目 (幼保・施設用)
1/16	◆全体会
1/23	造形表現講座 (45分) 造形実技 (45分), 小テスト (45分)
1/30	総括 幼保・施設の採用試験対策の振り返り 来年度に向けての課題と取り組み

(4) 公務員就職支援室

本学の公務員志望者は、「公安系公務員」(警察官, 消防官, 海上保安学校・入国警備官, 刑務官, 自衛隊一般曹候補生)を希望する者が大半である。これは, 本学学生の8割が体育会に所属していることと, 警察官や消防官等が運動能力を求めている職種であることの結果とも言えよう。

【公安系公務員の採用試験の一例】

◆採用試験実施時期：5月 (春採用)・9月 (秋採用)

1次試験…教養試験, 論作文試験

2次試験…適性検査, 身体・体力検査, 口述試験

体力検査の例をあげると, 腕立て伏せ, 腹筋運動, パーピーテスト, 懸垂, 反復横飛び, 握力測定, 上体起こし, 立ち幅跳び, 関節運動, 肺活量測定, 垂直跳び, 20メートルシャトルランなどがある。どの項目も職務執行に必要な基礎体力が備わっているかどうかをチェックするためのものであり, 平均をクリアしておれば問題はない。また, 職種によって身体基準や体力試験の内容に違いがあるので, 学生に対して注意を促

す必要がある。

【公務員就職支援室のキャリア支援】

公務員就職支援室では, 職員1名が外部の公務員受験専門校と連携をして対策講座の実施をしている。

①公務員対策講座

本学における公務員就職支援室の特徴は, 公務員対策講座を外部の専門学校と連携しつつも過度に依存していないことである。公務員講座終了後も指導者が常にキャリアセンター内にいるので, 学生の質問に対して即日対応ができるという利点がある。また, 公務員講座の開講日は, 毎週月曜日1・2・5・6講時, 毎週水曜日5・6講時, 毎週木曜日6・7講時である。(2011年11月末現在) 毎週木曜日には夜間講座を実施し, 部活動をしている学生も通えるように配慮をしている。

3年生 9月～2月 基礎講座, 模擬試験①

4年生 3月～4月 実践講座Ⅰ, 模擬試験②

5月～7月 実践講座Ⅱ, 模擬試験③

8月～9月 実践講座Ⅲ, 模擬試験④

②受験先の選定

毎年行われる公務員試験の傾向を検討・分析すると同時に, 定期的に行う模擬試験の結果から, それぞれの学生のウイークポイントを探り, 補強するための教材を作成している。受験先の選定方法では, 模擬試験データと各都道府県の試験の傾向を照らし合わせながら個人面談を行い, 学生と共に決めている。

③学内採用説明会・学外施設見学会の実施

3年生後期の必修科目「キャリアデザイン」の中で, 学内に採用担当者を招いて各種採用試験セミナーを実施している。また, 警視庁の見学会(2012.3)を通して学生が明確な目標を持てるように促している。

④平成23年度「キャリアデザイン」の実施

公務員就職支援室では, 以下のキャリア支援プログラムを実施している。3年生(後期)を対象としている。

表3

日程	内容
9/26	◆全体会
10/3	公務員採用試験「傾向と対策」 H23年度採用試験の傾向分析
10/17	自衛隊採用説明会 「一般曹候補生採用試験に関して」
10/24	◆全体会
10/31	◆全体会
11/7	雇用に関する知識 昨今の社会情勢、社会保険の内容を知る ※企業等就職支援室との合同
11/21	◆全体会
11/28	警察官採用試験学内説明会 大阪府警 or 兵庫県警 or 岡山県警
12/5	刑務官など国家公務員学内説明会 岡山刑務所 or 海上保安庁 など
12/12	採用試験合格者の体験発表会① 「警察官/自衛官合格者から後輩へ」
12/19	採用試験合格者の体験発表会① 「消防官/その他合格者から後輩へ」
12/26	公務員模擬試験「基礎編-1」 基礎的な公務員模擬試験 ※60分で実施し、採点まで行う
1/16	◆全体会
1/23	警視庁/東京消防庁見学会の実施要項 詳細なスケジュールの説明
1/30	公務員模擬試験「基礎編-2」 基礎的な公務員模擬試験 ※60分で実施して採点まで行う

(5) 企業等就職支援室

一般企業を志望する学生の特徴として、「明確な進路決定ができないから、ひとまず一般企業を志望した」というケースが目立つ。そこで、キャリア支援では、学生と教職員が一对一になって対話をし、自己分析を進めさせながら受験企業を絞り込む方法をとっている。

また、平成23年1月に日本経済団体連合会が就職協定を見直したことによって、平成24年度卒の学生は、それ以前の学生よりも就職活動期間が実質2ヶ月間短くなった。

【一般企業における採用試験の一例】

◆採用試験実施時期：平成24年度卒の学生は、12月1日から会社説明会の開始、4月1日から選考開始

エントリー…単独会社説明会（面談会）、書類選考
1次試験…教養試験、SPI、論作文試験、適性検査
2次試験…人事や現場主任との個人集団面接試験
3次試験…役員との個人面接試験

平成23年度卒の学生が記述した「採用試験報告書」を見ると、①面談を含めた3回以上の面接試験、②自分をプレゼンテーションする課題試験、③事業所の改善点の提示をする課題試験などが目に留まる。①面談を含めた3回以上の面接試験とは、現場主任による面接に加え、人事部による面接、役員による面接を指す。より多くの目でその人物を確かめたいという企業の思いも感じられる試験である。②自分をプレゼンテーションする課題試験では、写真や思い出の品などを持参して自己PRのプレゼンをする試験である。自己表現能力の評価が主目的である。③事業所の改善点の提示をする課題では、飲食業界で多く取り入れられている。実際に事業所へ学生を志向させ、店全体の雰囲気やスタッフの対応などを評価させ、「自分が店長であれば、どのような店舗運営を実現させますか」といった設問に答えるという課題が目立った。これは、自社の課題を発見すると共に、学生の自社に対する関心度及び問題発見能力を評価したいという企業の思いが感じられる試験方法である。

【企業等就職支援室のキャリア支援】

企業等就職支援室のキャリア支援は、教員1名と職員3名で行っている。

①個別対応を徹底したキャリア支援

学生の相談内容を個別キャリアカウンセリングシートにまとめ、それをを用いて学生の情報共有化を図っている。また、就職活動において最も重要な指導の一つである履歴書やエントリーシートの書き方については、キャリアデザインにて一斉指導を行った後、キャリアセンター内で個別指導をしている。その他にも、送付状や内定のお礼上などのビジネス文書作成の指導、服装のチェックも行っている。

②採用試験対策

一般常識やSPI試験など各種筆記試験、個人・集団面接、ディスカッション（時事問題を取り上げた試験の実施等）、プレゼンテーション（事業企画書の指導等）をしている。企業によって試験は千差万別であるため、その企業の過去の採用試験問題を取り上げながら個別に指導をしている。

③キャリア支援講座や学外学内イベントの充実

平成23年12月現在のところ、キャリアセンターにおけるキャリア支援は、2年次から行うインターシップの事前事後指導、3年次では企業の人事担当者による業界・企業研究の講演会や社会人マナー講座、メイク講座の開催である。学外イベントでは、

3年生を対象に合同企業説明会のバスツアー（平成23年12月3日、インテックス大阪、参加者27名）の企画や学内合同企業説明会（平成24年2月10日、大講義室2、参加企業25社）の開催である。

④キャリアセンターの環境整備（平成23年7月～）

学生の見やすい場所に企業情報ファイル（平成23年11月末現在486社）を設置し、また企業検索システム（ユニキャリア）の導入も行った。キャリアセンター内の掲示板には、全学生に対応した「就職活動の流れ」を設置し、キャリアセンターの外には、合同企業説明会や求人情報、時事問題等の掲示を設置した。キャリアセンター外の掲示板は、ほぼ毎日のペースで更新をしている。他にも、大学院・専門学校進学希望者のコーナーやアルバイト求人情報コーナーなどを設けた。

④平成23年度「キャリアデザイン」の実施

企業等就職支援室では、以下のキャリア支援プログラムを実施している。3年生（後期）を対象としている。

表4

日程	内容
9/26	◆全体会
10/3	業界研究①「就職活動の方法」 志望企業調査書・進路登録カードの記入
10/17	業界研究②「飲食業界の現状」 企業人事担当者による講演
10/24	◆全体会
10/31	◆全体会
11/7	業界研究③「雇用に関する基礎知識」 昨今の社会情勢、社会保険の内容を知る
11/21	◆全体会
11/28	業界研究④「合同企業説明会の歩き方」 合同企業説明会の様子やその対策
12/5	業界研究⑤「製造・小売業界の現状」 企業人事担当者による講演
12/12	業界研究⑥「内定への道のり」 4年生内定者が内定への取り組みを話す
12/19	業界研究⑦「一般企業採用試験対策」 採用試験対策、志望企業調査書の記入
12/26	業界研究⑧「業界研究のまとめ」 業界研究①～⑧までの振り返り
1/16	◆全体会
1/23	業界研究⑨「履歴書・エントリーシートの作成」 履歴書・エントリーシートの留意点と作成 会社説明会および求人情報の共有
1/30	業界研究⑩「学内合同企業説明会の準備」 履歴書・名刺の作成

キャリアデザイン講義終了後は、学生満足度アンケート調査を実施している。受講者のうち80%以上の学生は、講義に対して「大変満足している」もしくは「満足をしている」と答えている。また、アンケート用紙に自由記述欄を設けており、キャリアセンターの職員が学生の質問への返答を書き、次回の講義の時に配布している。学生からの疑問や質問などの声に直接対応することで、キャリアセンターと学生との信頼関係を築くことに役立っていると思われる。

4. おわりに

大学新卒者を取り巻く就職環境は、大変厳しい状況であるといえる。近年では、平成23年3月卒業予定者の平成22年10月1日時点の就職内定率が、調査開始以来最低の57.6%であったこと、文部科学省の学校基本調査において平成22年3月卒業者のうち「進路未定の者」は前年に比べて19,280人も増加して87,174人となったことが大きく取り上げられた。

このような状況の中にあると、大学で実施されている教育課程内のキャリア教育や教育課程外のキャリア支援が担う役割は、「学生を就職させること」にどうしても注目が集まる。しかし、昨今の大学におけるキャリア教育の動向をみると、就職に至るまでの過程が重視され、生涯を見据えた社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成を援助するキャリア形成支援が取り上げられている。キャリア形成支援という観点から本学のキャリアセンターにおける各分室の取り組みを見ると、就職活動に対する直接的な支援の傾向が高いと思われる。しかしながら、今後は、キャリアセンターでの取り組みも、単に就職活動の直接的な支援という視点から行われるのではなく、学生一人ひとりの「キャリア形成」を図るという視点からみた活動を行うことがより一層求められることになるだろう。

引用・参考文献

1. 厚生労働省岡山労働局 「平成23年3月新規学校卒業者の就職決定状況」 2011
http://okayama-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/var/rev0/0002/7179/toukei03_09.pdf (2011.12.1)
2. 松下佳代編著 (2010) 『〈新しい能力〉は教育を変えるか 学力・リテラシー・コンピテンシー』 ミネルヴァ書房
3. 日本経済団体連合会 「新卒者の採用選考活動の在り方について」 2011
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/>

policy/2011/001.html (2011.12.1)

4. 文部科学省 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」 2004
5. 中央教育審議会答申 「学士課程教育の構築に向けて」 2010
6. 独立行政法人 学生支援機構 「大学, 短期大学, 高等専門学校における学生支援取組状況に関する調査 (平成22年度)」 p 40~41 2011

参考資料

- 1) IPU・環太平洋大学 「IPU・環太平洋大学2012 CAMPUS GUIDE」 2011
- 2) IPU・環太平洋大学 「2011 学生便覧」 2011